

[9] 電子機械工業

12/11 13/12 ◎ 伸び率10%以上 ○ 伸び率0~▲10%
: 天気図マーク: ◎ ● ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成12年度は、コンピュータ、通信機器、半導体、電子デバイスいずれも内需、輸出ともに前年度を上回ったが、とりわけ半導体は内需、輸出ともに前年度比20%以上増と好調であった。

今後の見通しとしては、米国景気の不透明感から、内需、輸出ともに低調に推移するものと考えられ、2、3月には、コンピュータ、通信機器には大きな変化は見られなかったものの、半導体、電子デバイスの内需、輸出ともに減速傾向が顕著となっている。

(2) 生産・設備稼働

平成12年度の生産は、コンピュータ、通信機器、半導体、電子デバイスいずれも前年度を上回ったものの、昨年末の米国景気の減速により、通信機器を除き、2、3月には対前年比マイナスに落ち込み、減速傾向となっている。

今後の見通しとしては、世界的な景気不透明感により、昨年の需要拡大局面における積み増し在庫の解消メドが立たないことから生産は減少傾向が続くものと見られる。

(3) 企業収益

平成12年度は、各社とも半導体、電子デバイスが好調に推移し、収益に大きく貢献したが、平成13年度は、米国景気の不透明感によるIT需要の落ち込みにより、半導体、電子デバイスを中心に厳しい収益見通しとなっている。

(4) 財務

産業全体として、事業構造改革等の取り組みが進んでおり、財務状況の改善に向けた努力がなされている。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

平成8年以降減少傾向となり平成10年には対前年度比23.4%減となったが平成11年には対前年度比がプラスに転化し、平成12年度に對前年度比22%増と大きく上向いた。

(2) 平成13年度の設備投資計画

米国景気の不透明感によるIT需要低迷が予想され、好調だった昨年の積み増し在庫の解消メドが立たないことから、対前年度比12.9%減となっている。構成比を見ると、生産能力増強投資は7.8%減となっているものの、研究開発投資は5.2%増となっており、技術力強化による競争力確保の傾向が見られる。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

平成13年度計画の長期資金運用額は、対前年度比17.9%増となっているが、平成12年度見込みの対前年度比45.1%増に比べ大幅に伸びが抑制的となっている。また、社債の償還のためと見られる短期資金振替の充当超過が大幅に拡大している。

(2) 長期資金調達動向

従来から資金調達を主として内部資金による傾向が続いているが、平成13年度計画においてもこの傾向に特段の変化は見られない。平成12年度見込みから平成13年度計画への変化としては、借入金の償還超過から調達超過への転換がある一方、社債の償還超過の拡大が見られる。

(グラフ1：設備投資の前年比の推移)

